

2024年6月20日(木)

世界難民の日

難民危機研究会発表レポート

開催日：2024年3月15日(金)

発表者：阿部 明子、現地の人道支援専門家（人道問題、女性と若者支援、食料と生計向上支援、教育支援、市民社会支援担当者）

発表テーマ：「国境の現場からーミャンマー避難民の現状と課題について」

世界的な人道危機に直面しているミャンマーにおける避難民の現状と課題について、主にミャンマー北部地域の現地人道支援専門家を交え、現在の政治経済状況や、食料やシェルター支援、教育支援、市民社会への支援についてプレゼンテーションののち、参加者と今後の支援のニーズや国際社会に求められる支援のあり方等につき議論した。（ミャンマーで人道支援を必要としている人は1760万人、紛争による避難民は1960万人とされている。）

現在タイ・ミャンマー国境地域では、タイ政府による人道回廊が提案され、ミャンマー赤十字及びタイ赤十字による人道支援が3月25日開始された。他方、現地の避難民コミュニティ等からは、同支援により少数民族地域への治安や安全保障の問題に懸念があるとの声があがっていた。上記支援では、一部地域において国軍による同支援の展開もあったとの現地報告があり、避難民からは同人道支援の有効性について早くから疑問視されていた。そういった懸念事項について、同支援が実際に展開される前から、現地の人道支援専門家たちは、直接現地の避難民に届く支援を国際社会に求めたいと切に訴えていた。国連の支援もまた、現状では国軍がアクセスを許可した地域に限られ、人道支援を必要としている国境地域には必要な支援物資が十分に届いていない、というのが現地の支援家たちの共通の見解であった。このような人道危機に、国境地帯で日本や国際社会は何ができるのか。現地の人々の声により真摯に耳を傾け、現地の人々が自立して、国際社会と協力し合いながら、相互に自助努力できる支援を多方面で展開していくことが求められている。

*より詳細については、国際開発ジャーナル6月号に、当方の寄稿が掲載されている。
(添付)

現場からの報告（筆者及び難民関係者撮影）



タイ議会関係者によるミャンマーセミナーの開催（2024年3月）



日本国際平和構築協会 難民危機研究会にて現地の人道支援関係者から現状を聞く
(2024年3月)



難民の友人家族との再会。



難民学校への訪問1 学生たちによる日本への留学フェア開催。



難民学校への訪問2 学生たちによる異文化交流を実施。



人道支援団体 Child Dream による避難民への教育支援について学ぶ。



タイの大学にて、各有識者とともに情報共有会を開催。今後の対話と協力の継続を確認した。

阿部 明子

国連や国内外の国際協力の現場にて、アジアにおける平和構築に資する人道と開発協力・研究・ボランティア活動に従事。紛争影響地域における人間の安全保障の拡充や平和構築に資するコミュニティベースの人々の保護とエンパワーメント、グローバルな平和構築を推進。「Understanding Regional Dynamics in Asia-Pacific」(共著、早稲田大学出版、2022) 日本国際平和構築協会理事。MIS アドバイザー他。